

北空知地域医療介護確保推進協議会 事業報告に係る説明資料

○Ⅰ 部会「医療介護相談・在宅生活支援部会」

- ①認知症研修会の開催_____1、2
- ②北空知地域入退院支援研修会の開催_____3～5

○Ⅱ 部会「多職種連携・地域啓発部会」

- ①地域包括ケアに携わる多職種合同研修会（ケア・カフェ）の開催_____6～9
- ②北空知地域医療介護連携支援センターホームページの更新_____10
- ③在宅医療・介護を考える北空知地域住民フォーラムin 深川の開催_____11～14
- ④北空知地域リハビリテーション活動支援事業の概要_____15～21



認知症研修会 開催結果

～認知症ケアに関わる取り組みについて学ぼう～



- ・ 日 時 令和7年2月4日（火） 18:00～19:30
- ・ 場 所 ハイブリッド開催（市立病院2階会議室及びZOOM）
- ・ 参加者 51名 （医師1名、歯科医師1名、薬剤師1名、看護師17名、
認知症認定看護師1名、保健師8名、介護支援専門員5名、介護職3名、
ヘルパー2名、社会福祉士2名、MSW1名、主任生活相談員1名、
施設管理者4名、行政職4名）
- ・ 目 的 認知症ケアに関わる取り組みについて医師や専門職から学び、認知症ケアに関わる関係者が日頃の困難事例への対応について広く情報共有し検討する機会とする

開会挨拶と司会進行の福島在宅生活支援小部会長



続々と受け付けに参加者が到着します

- ・ 今回は市立病院会議室とZOOMのハイブリッド開催としました。
- ・ 参加者は51名と会議室の定員60人に近くなりましたが、ZOOM参加もあり会場には余裕がありました。
- ・ 研修内容は、
 - （1）代田医師による講演
 - （2）質疑応答
 - （3）認知症に関わる困難事例意見交換会
 - （4）全体共有
 - （5）アンケート記入
 という流れで行われ、全体で1時間30分となりました。



市立病院会議室での研修は久しぶりの開催となりました

専門家の立場から講演を
いただいた代田医師



認定看護師が場内をラウ
ンドします



質疑応答では、病院を嫌がる患者をどう診察に繋げると良いかや、運転をやめさせたいがどう伝えたらいいかわからない、どの程度まで運転させていいものかという相談があった場合、医師は家族や本人にどのように説明されているのか。何か良い方法はあるか、などの質問があり、代田医師からそれぞれ適切な回答がありました。

代田医師からは、認知症に関する医学的見地からの判断基準や、主だった疾患、対策などについて説明があり、

- ・認知症の定義、せん妄を火に例えた場合の3つの因子の説明、認知症高齢者は2012年で462万人だったものが2025年には700万人に増加するという推計がある
- ・また、よく知られているアルツハイマー型認知症以外にも血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症などたくさんの疾患があり、薬による治療だけでなく環境調整などの適切なケアが必要
- ・包括的ケアや多職種連携による本人の意思をくみとることや細やかな治療・ケア戦略をとる必要がある
- ・アルツハイマー型認知症のケアのポイントは失敗を否定したり指摘したりしない・簡単な言葉で複数を同時に言わない・カレンダーなどを目立つところにおき一緒に印をつける、できることは継続し励ます等
- ・レビー小体型認知症はアルツハイマー型認知症と比べケアが難しく症状が介護力を上回ることが比較的早期に訪れる

など専門的知見から講話をしていただきました。

グループワークの内容を
全体共有します



○参加者アンケートから

- ・抱えているケースのHP関係者と事例を共有できた
- ・具体的な対応方法を聞いて参考になった
- ・専門医からの講話が聞いて良かった
- ・皆共通する課題を持っており、解決案はなくても情報の共有や業務に活かされる話し合いができた

令和6年度 北空知地域入退院支援研修会開催結果・評価

項 目	内 容
1 日 時	令和6年9月26日（木）18:00～19:30
2 内 容	（1）講 演 テーマ 「チームで支える在宅ケア～みんなが一步前へ！」 講 師 北海道総合ケア事業団稚内訪問看護ステーション古川典子所長（訪問看護認定看護師） （2）実践報告 ①精神障がいを持つ方の訪問看護事例 報告者：訪問看護ステーションいしずえ深川 正田 健 所長 ②人工呼吸器を装着しながら在宅療養を続ける（ALS）患者 報告者：保健所保健師および訪問看護師 （3）意見交換・質疑応答
3 出席者	看護師43名、准看護師2名、助産師2名、保健師20名、保健師学生2名、薬剤師3名、理学療法士1名、介護支援専門員12名、介護福祉士・介護員1名、社会福祉士8名、管理栄養士1名、公認心理師、臨床心理士1名、ホームヘルパー2名、事務職1名、不明5名 合計103名（当日欠席1名）
4 結 果	1 経過等 ・稚内は、北空知管内と同じく、基幹病院が稚内市立病院1つであり、社会資源も多くないことから、同様の悩みや困難さがあると感じているのではと考えて依頼した ・訪問看護の役割、できることを知ってもらうこと、在宅での生活支援を学ぶこと、連携において必要なことを考えることを目的とした ・103名の申込があり、うち保健師を含む看護職が6割、その他地域の医療保健福祉職に多く参加していただいた 2 講演 ・講演では、がん末期や認知症の事例から、最後まで自宅で過ごしたいという気持ちに寄り添う意思決定支援についての話があった。 ・その中で、今の意思決定が、のちに変わってもよいこと、話していく中で意思決定のための整理をする伴走者であることが印象に残った。 ・連携については、体験談を含め、利用者のためにという共通認識を持ちながら、お互いに気持ちよい連携ができるよう心がけているとの話があった。 2 実践報告 ・訪問看護ステーションいしずえ深川正田所長から、利用者さんから内服の拒否言動があった場合、つい支援者は「薬は飲まなきゃダメです」「先生の指示ですから飲んでください」と言ってしまうが、本人の辛さを共感的に受け止めて、利用者さんの思いに寄り添う支援について報告があった。 ・保健所宮下保健師から、人工呼吸器を装着して在宅療養された方は今まで管内になく、今ある資源で本人と妻の意向を叶えることは当初は難しいと思っていたが、各機関の支援者が諦めることなく、関係機関の連携と、本人・家族の意向を丁寧に聴きとり、療養環境を調整していった経過の報告がありました。また、難病の進行に伴う家族の介護力、吸引や夜間訪問可能なヘルパー等、医療的ケアを担える在宅療養を支える資源不足の課題などの報告があった。

	4 アンケート ・アンケート回答者36名／103名。回収率35.0%。 ・(1)職種、(2)経験年数、(3)現在の職位、(4)講演は理解できたか、(5)その理由、(6)実践報告1の感想、(7)実践報告2の感想、(8)意思決定支援で印象に残ったこと、参考にしたいこと、(9)研修会を通して学んだこと、(10)研修会の時間どうだったか、(11)研修会全体の感想、(12)ケアカフェの認知度、(13)ケアカフェの参加経験、(14)ケアカフェに参加できるか、(15)今後の研修会開催方法希望、(16)希望する研修会テーマ、(17)その他意見・感想 の欄を設けた 全体をととして、参加者は講演内容や事例報告を通じて、意思決定支援に携わる職種として共感をもって理解を深めたことが伺えた。支援する側が良かれと思うのではなく本人家族の意向を踏まえた支援を行うことが重要であることを再認識したなどの回答が多く、研修の効果が高かったと思われる
--	---

5 評価 達成度 について ○→達成・ 良かった △→ほぼ 達成・ まあまあ 良かった が課題あり ×→達成 できてい ない・良く なかった	企 画	【目 的】 北空知地域の地域医療関係者と地域支援関係者が連携して、入退院支援を進めていく関係を築く 【目 標】 1. 支援関係者が、本人や家族の思いに添った支援ができるようになる 2. 医療関係者と地域支援関係者が、情報を共有し同じ目標で支援ができるようになる ○ <u>地域の入退院支援の課題に即した企画だったか</u> → 「○」 様々なケースが用意され、地域にも色々なケースがあり、様々な職種が色々考えるきっかけになりよかった。 本人や家族の思いに添った支援が目標なので、内容的にも「思い」を汲み取った支援展開だったので北空知看護研修会との合同開催だったが入退院支援研修会としての目標と合致していた。 ○ <u>周知方法はどうか</u> → 「△」 北空知看護研修会からの案内を受け、北空知地域医療介護確保推進協議会としての案内を関係事業所へ（107か所）行った。 参加者に介護支援専門員の参加が少なかったため、小部会としての周知がもう少し必要だった。 ○ <u>開催状況はどうか</u> → 「○」 103名の参加があり、北空知管内で98名、管外からも6名の参加があった。
	プ ロ セ ス	○ <u>小部会の打合せ・準備状況</u> → 「○」 北空知看護研修会と合同開催であったため、小部会としての協議は1回のみだった。 ○ <u>小部会のメンバーそれぞれが役割を遂行できたか</u> → 「△」 上記のとおり北空知看護研修会が企画・運営を担っていただいたため、小部会としての役割はほぼなかった。 ○ <u>ねらった参加者の参加、職種</u> → 「○」 ・参加人数103名で医療と介護の連携のそれぞれ要となる職種が大半を占めている。 ① 看護職41.7%、②ケアマネジャー11.7%、③保健師19.4%。
	結 果	○ <u>参加者数、職種</u> → 「○」 3 出席者に記載のとおり

	○ 参加者の満足度 →「○」 ・アンケート結果からも意思決定支援への理解が深まったこと、本人・家族の希望と意思に寄り添うことが大切であることや、精神障がいを持つ利用者の意思の尊重、難病患者に対するチーム連携事例からの学びなどが感想として寄せられた。 参加者は意思決定支援の必要性を理解してもらったと思われる。 ○支援関係者が、本人や家族の思いに添った支援できるよう検討できたか → 「○」 難病患者をチームとして支援していくといった内容があり、本人の思いをみんなで共有し、支援していく大切さを検討できる機会になったと思う。 ○ 医療・地域支援関係者が情報を共有し同じ目標で支援できるよう検討できたか →「○」 上記記載におなじ ○調整ルール（様式3）から得られた情報は適切だったか。過不足はなかったか→ 「△」 メインは意思決定支援だったので、調整ルールとは離れた内容だった。
まとめ	・北空知看護研修会と合同開催としたが、意思決定支援などの課題について入退院支援研修会としての目標とも合致しており、「支援関係者が、本人や家族の思いに添った支援ができるようになる」という目標にも合致していたことから有意義な研修会となった。 ・参加人数が直近の研修会より多く確保できたが、介護支援専門員の参加が少なく医療介護連携事業としては更に周知が必要だった。 ・アンケート結果から、研修会参加者が意思決定支援するにあたり、「どのようなことを意識しているか」「どんなことが難しいと感じるか」という設問があっても良かったのではないかと。こうした設問により調整ルールの必要性がより鮮明になるのではないかと。 ・今後の研修会については、近年参加者が減少してきている背景として、地域課題や現場職員の困っていることと、研修会の開催目的に乖離が生じてきていると推測されることから、アンケートを実施しその結果から課題整理をした上で開催検討していく。

地域包括ケアに携わる多職種合同研修会

～ 「顔の見える関係」から「多職種協働」、そして「チーム北空知」へ ～

「第1回ケア・カフェきたそらち

在宅での生活の支え方を考える開催報告

- ・ 日 時 6年10月10日(水) 18:00～19:03
- ・ 開催方法 オンライン(ZOOM)
- ・ 主 催 北空知地域医療介護確保推進協議会
- ・ 参加者 48名(事前申込者49名 欠席1名)
(市町別: 深川市32名、妹背牛町3名、秩父別町0名、北竜町8名、沼田町4名、滝川市1名)
(職種別: 医師1名、薬剤師1名、看護職16名、保健師8名、介護支援専門員3名、介護福祉士4名、社会福祉士3名、ソーシャルワーカー1、相談員2名、管理者2名、管理栄養士1名、リハビリ職2名、事務職3名、その他1名)
- ・ 目 的 北空知における地域包括ケアシステムの構築を目指して、地域の保健・医療・介護・福祉の関係機関・施設・事業所等において、患者や利用者、地域住民の支援に携わる多職種の関係職員が一堂に会することが困難な状況にあっても、互いの役割を確認・共有し、切れ目のない支援・サービスが提供される多職種連携の関係作りを構築する。



総合司会は多職種合同研修企画小
部会三井委員(保健所)です。



いつもの感じでスタート
です





開会挨拶は、
深川市市民福祉部高齢者支援課の
北垣課長(運営会議座長)です。

今回の話題提供は 9/26 に開催された北空知看護
研修会での講演と事例報告を受けて意思決定
支援についてグループワークで掘り下げる2部
構成としました



在宅医療における意思決定支援

在宅医療は、病気や老いによって、これまでの自分とは違う何かを失っていく過程にあります

本人や家族が自己決定に導いて、望む形で療養生活を送るための支援です
日々の生活の仕方を定め、どのような療養生活を送りたいのか？
どのように生きていきたいかなど、療養者の意思や希望を引き出し、
決められるよう支援（意思決定支援）する

意思決定不全は、医療者とのコミュニケーション不足や関係性が構築できないことが、
意思決定不全の原因となる

○令和6年度第1回研修会は、9月26日開催の北空知看護研修会
において『在宅での生活の支え方を考える』をテーマとし専門職
の講演と具体的なケースの報告を従来の情報提供とし、研修会か
ら見えた課題・意見をケア・カフェ形式で会話しながら理解を深
めることとしました。また引き続きオンラインとしました

○北空知看護研修会の経緯としては、稚内は北空知管内と同じく、
基幹病院が稚内市立病院1つであり、社会資源も多くないことか
ら、同様の悩みや困難があると感じているのではと考えて依頼
訪問看護の役割、できることを知ってもらうこと、在宅での生
活支援を学ぶこと、連携において必要なことを考えることを目的
としました。研修会には103名の申込があり、うち保健師を含む
看護職が6割、その他地域の医療保健福祉職に多く参加しました

○今回のケア・カフェの話題提供の内容としては、上記の研修会に
おける「チームで支える在宅ケア みんなが一步前」というテーマ
で、稚内訪問看護ステーション古川所長の講義を受けこれを元に
グループワークで課題をさらに深めることとしました

○末期や認知症の事例から、最後まで自宅で過ごしたいという気持
ちに寄り添う意思決定支援についての話や、利用者のために共通
認識を持ちながら互いに気持ちよい連携ができるよう心がけて
いるとの話がありました

○実践報告では、訪問看護ステーションいしづえから本人の辛さを
共感的に受け止め、利用者の思いに寄り添う支援についての報告
や、保健所からは、人工呼吸機を装着して在宅療養されている方
について支援者が諦めることなく、本人と妻の意向を丁寧に聞
き、今ある資源で意向を叶えられる方法を探ることができたとい
う報告があり、本人の意思決定支援や連携の重要性について考え
る機会となったことが報告されました

実践報告

「人工呼吸器を装着しながら在宅療養を続ける
ALS患者・家族への意思決定支援」

R6. 9. 26 令和6年度北空知看護研修会
北海道深川保健所 健康推進課健康支援係 保健師 宮下



これらを受けて、

『在宅での生活の支え方』とは？



何があればできますか？
どうしたらできますか？
大切なことは何でしょうか？





今回のカフェマスターは訪問看護ステーション
いしずえ所長の疋田さんが担当していただきました。
お忙しい中ありがとうございました！！

今回のテーマ



～アンケートから～

- ・思ったよりも構えることなく参加することができた。様々な地域で職種の方のお話が聞けて、とても参考になりました。
- ・支援するうえで難しいと感じていることなど情報交換はできましたが、時間が足りなかったです
- ・時間が短く、深い内容になる前に終わってしまい残念でした
- ・同じグループに医師がいて、考え方を聞いたのはよかった
- ・職種によって、視点も違い色々な思いもあるように感じた。
- ・意思決定支援やバイタルリンクなど今後活用して、利用者さんが独居になっても住み慣れた地域で過ごしやすいうように、支えられ、考えてあげられる事は大切だと思いました。
- ・業務上の悩みを共感していただき、励みになったため
- ・和気あいあいと話ができました

Chat1・2では5～7人のグループに分割しました。
Chat1が事務局の設定ミスで20分の予定が半分の10分で終了してしまいました。
すみません…。





実際に身内に介護が必要な状況になった時にどこに相談したらいいのか、漠然とした介護家族側の不安感についてのお話が出ていました
妹背牛町地域包括支援グループ末岡さん



残った薬を持参される患者様が多い。どうやって薬を減らしていくか。お薬カレンダーでの管理を提案しているのが実情
ナカジマ薬局大村さん



マンパワー不足は否めないが在宅の本人や家族のニーズをしっかりとつかむことが大事。市立病院では月1回総合診療科を開設しているので是非ご相談を
深川市立病院院長新居さん

～グループワークから～

- ・利用者、家族の気持ちに寄り添っていくことは基本的なことだが難しい
- ・意思決定支援は、本人の思いと家族の思いが正反対なこともあり、難しい。関係性の構築ができていないと聞きづらい
- ・高齢男性の無気力さ、男性の社会参加が少ない。リハビリをするにも目標がなくうまく進まない
- ・男性でも何を食べようか考え、買い物に行くことが生きがい、楽しみと言う人もいる
- ・お金がない、支える支援者がいない方の自己決定支援が難しい

～参加者の声から～

- ・利用者本人の本当のニーズを実現するために、自分が支援を行っていく中で今後の利用者さんとの関わり方や信頼関係の作り方を改めて考える時間になりました。”正解がない”難しい問題ですが、様々な職種で連携ができていければより良い在宅生活を支える一つになれるのかなと思いました
- ・zoomで実施するのはやりとりなどが難しいのではないかと思います。もしやるなら対面で実施したらよいのではないかと。
- ・参加メンバーが固定化されており、日頃の悩みはケアカフェでなくても相談できるので、無理に実施せず、他の部会でもたくさん研修があるので、頻度を減らしているのではないかと
- ・(今後聞いてみたい話)
法定後見制度・成年後見人について
保証人を立てられない方の支援方法や対応法
地域の医師の地域連携や在宅療養について
ACPについて



・医療・介護サービスガイドの更新のほか、「きたそらりんく」の運用開始、研修会等の開催報告など、ホームページを18回(件)更新しました。

「医療や介護が必要になっても住みなれた自宅や地域で自分らしく暮らしたい。」
～その想いをかなえるために支援を行います～

北空知地域医療介護連携支援センターは、北空知市4町（深川市、国田町、国田町、国田町）の医療・介護・福祉の分野で連携し、地域で暮らす高齢者の生活の質を向上させることを目的として、地域包括ケアシステムの構築を目指しています。また、地域で暮らす高齢者の生活の質を向上させることを目的として、地域包括ケアシステムの構築を目指しています。

お知らせ・ニュース

- 2024年 10月16日 水曜日 [在宅医療・介護を考える北空知地域住民フォーラムin深川のご案内](#)
- 2024年 08月29日 木曜日 [北空知地域の社会資源・インフォーマルサービス一覧を更新しました](#)
- 2024年 08月29日 木曜日 [北空知薬局ガイドを更新しました](#)
- 2024年 08月29日 木曜日 [北空知歯科診療所ガイドを更新しました](#)
- 2024年 08月29日 木曜日 [北空知診療所ガイドを更新しました](#)
- 2024年 08月29日 木曜日 [北空知病院ガイドを更新しました](#)
- 2024年 08月29日 木曜日 [北空知介護保険サービス事業所ガイドを更新しました](#)
- 2024年 08月29日 木曜日 [令和6年度北空知看護研修会のご案内](#)
- 2024年 08月29日 木曜日 [認知症スキルアップ研修会の開催報告の開催報告](#)
- 2024年 08月29日 木曜日 [在宅医療・介護を考える北空知地域住民フォーラムin国田の開催報告](#)
- 2024年 08月29日 木曜日 [「地域包括ケアに携わる多職種合同研修会」第1回ケア・カフェきたそらち『介護士さんに聞く！身寄りのない方の支援』の開催報告](#)
- 2024年 08月29日 木曜日 [令和5年度北空知地域入退院支援研修会の開催報告](#)
- 2024年 08月29日 木曜日 [各専門部会構成員の名簿を更新しました](#)
- 2024年 08月29日 木曜日 [北空知地域医療介護連携支援センタースタッフ一覧を更新しました](#)
- 2024年 08月29日 木曜日 [運営会議事務局担当者の名簿を更新しました](#)

国田町
地域包括支援センター

国田町
地域包括支援センター

北空町
地域包括支援センター

在宅医療・介護を考える北空知地域住民フォーラム in 深川の開催報告

～ いずれはみんなに訪れる人生の最期 どう迎えますか？ どう送りたいですか？ ～

- ・ 日 時 令和6年11月10日（日）10:00～12:00
- ・ 場 所 深川市 経済センター 3階多目的ホール
- ・ 参加者 161名 （深川市135名、妹背牛町8名、秩父別町5名、北竜町4名、沼田町2名、その他7名 うち一般121名、支援関係者40名）
- ・ 目 的 北空知地域の住民の方に在宅医療や介護、地域での支え合いについて考えてもらう地域啓発の場とする

開会挨拶する深川市の宮森副市長



司会進行は深川市高齢者支援課の北垣課長

- ・ 事前申込者は148名でしたが、深川市を中心に、当日の参加者は161名と当初の目標の120名を大幅に上回る参加者数となりました。
- ・ 例年、早くから来場された方に、「ライスパワー体操」のビデオを放映し、介護予防体操を紹介していますが、今年は十分に浸透している地域であることからビデオ放送の実施はしませんでした。
- ・ 司会進行は、開催地の深川市高齢者支援課 北垣課長です。
- ・ 開催にあたって、深川市の宮森副市長から歓迎の開会挨拶をいただきました。



北空知の取組を紹介する村田事務局長

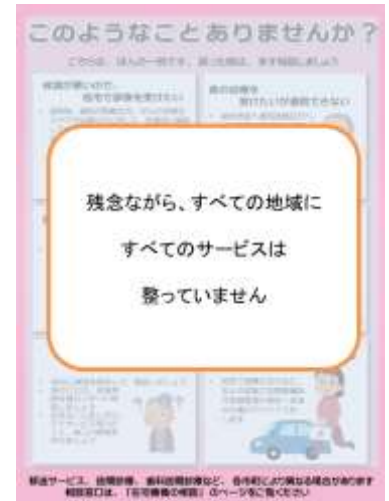
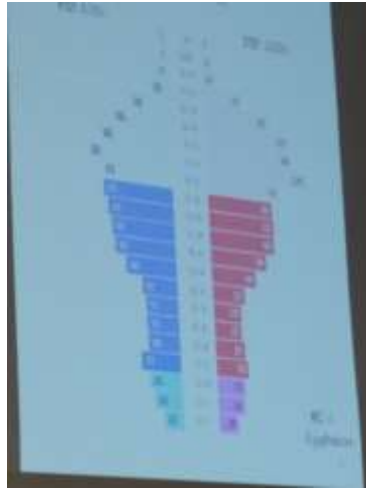
- ・ 北空知地域の在宅医療・介護の取組では、北空知地域医療介護連携支援センターの村田事務局長と深川市立病院訪問看護ステーションみのりの立花管理者のお二人からお話いただきました。
- ・ 村田事務局長からは「自宅で安心して暮らすために～チーム北空知の取組」と題し、北空知の医療と介護は、人や資源に限りがあり、全てのサービスを提供できるわけではないため、関係者が知恵と力を集めて連携し不足分をカバーしようとしている取り組みの紹介がありました。
- ・ そして事業所同士だけでなく地域住民の助け合い、困った時の相談先の紹介、そして緊急時の備えを普段からしていくことの大切さについて説明がありました。
- ・ 介護予防や健康づくり、病気や介護を必要になった時の対応など、住民の皆さんに考えてほしいこと、やってほしいことを協議会発行のパンフレット「住み慣れたまちで安心して暮らすために」の内容を中心にお話をいただきました。
- ・ 北空知地域は過疎地でも一定の介護・医療施設があり大きな災害などがなく暮らしやすい地域ではとのお話もありました。



160名を超える参加があり満員状態となりました



近隣駐車場も借りて対応。近い場所から満車状態になりましたがなんとか収容



自宅で安心して暮らすために 訪問看護の取り組み



患者・利用者を多職種連携で住み慣れた地域過ごせるよう支援します



訪問看護の事例を紹介する立花さん

数日後 永眠される

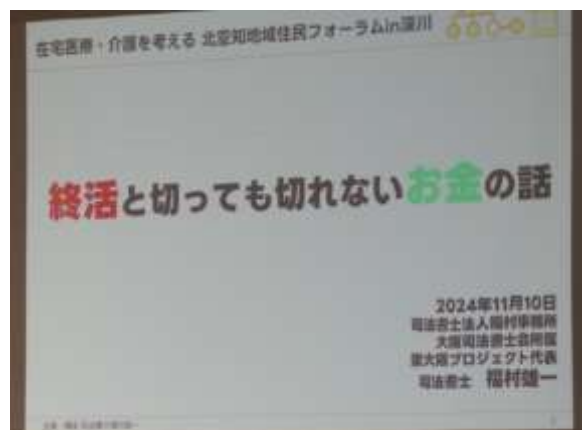
お孫さんに見守られながら安らかに永遠の眠りにつかれる

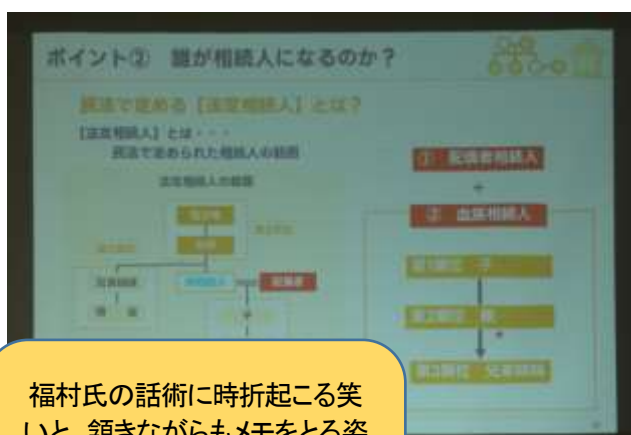
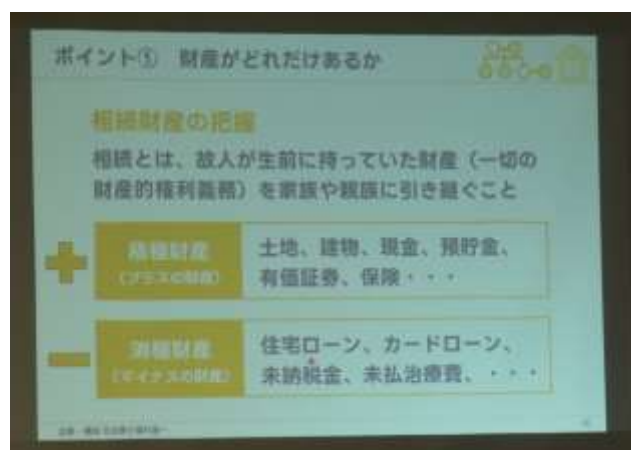
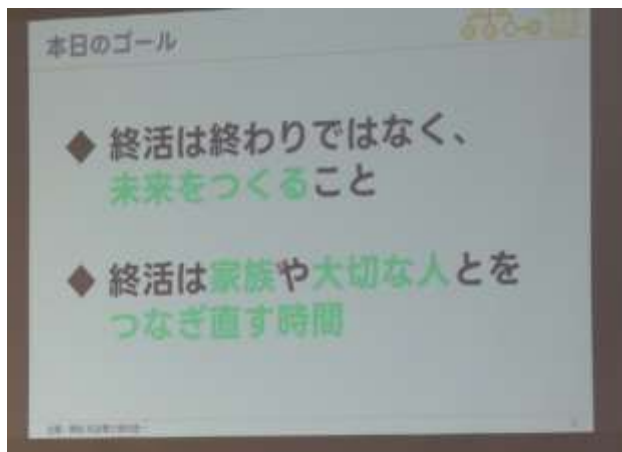


- ・続いて、立花管理者からは、訪問看護の活動を2つの事例から紹介をいただきました。
- ・1例目は、100代女性で心不全を患いながら孫と二人暮らしすることとして在宅酸素療法を用いながら退院した事例です。退院時には住宅環境や介護サービスと併せ訪問看護を利用することで在宅生活を支えるサポートを実施しました。
数日後、お孫さんに見守られながら最後を穏やかに自宅で過ごすことができました。
- ・2例目は、70代女性でひとり暮らし。近くに娘さんが住んでおり、がん終末期緩和ケアを行いながら、痛みのコントロール後、本人の強い希望で退院した事例です。多職種によるサービスを受けながら、食べたいと本人が言っていた餃子を食べるなど、自宅での食事を楽しんでいました。薬剤で痛みのコントロールをしながら経過をみていたがすこずつ体調が変化し辛そうな表情がみられる様になり娘さんから不安が出てきて入院。数日後家族に見守られながら永眠されました。
数週間後、心が折れそうな時もアドバイスをもらえたことなど娘さんから感謝の言葉がありました。
- ・立花管理者からは、住み慣れた地域や自宅で支える体制を整えているので是非訪問看護を利用していただきたいとの説明がありました。



講演する司法書士法人福村事務所
福村 雄一 氏





福村氏の話術に時折起こる笑いと、頷きながらもメモをとる姿も見られた参加者の皆さん。

遺言とは「言葉を遺す」こと



・福村氏の講演は、「終活と切っても切れないお金の話」というテーマで、人生の最終段階に向けた準備についてのお話がありました。

・「終活とは終わりではなく未来を作ること」「終活は家族や大切な人とをつなぎなおす時間」をゴールとして、「お金（財産）の人生会議」「相続」「遺言書の必要性」「法改正による新制度」に絞った講話がありました。

・北空知地域にも司法書士事務所は数名いるのでアクセスして終活に役立てていただきたい

・人生会議（ACP＝アドバンスケアプランニング）とは、最終段階に向けて自分が受けたい医療や介護について、大切な人と話し合うこと。多くの人が希望はあるけれど実際に家族と話し合っていない。事前に準備をすることで、後悔を減らすことができる。

自身の経験から大切にしてくれた祖父に合う頻度が少なくなり、大事なこと（血液型！）を伝えられなかったことが悔やまれる。

・相続は、亡くなった後も財産との関わりが続く重要なテーマ。相続手続きには、葬儀や名義変更、インフラの名義切り替えなどが含まれる。知っておきたい3つのこととして、1つ目は、将来相続が発生した場合に財産がどれだけあるのか。2つ目は、誰が相続人になるのか。3つ目は、相続分がどれくらいあるのかということ。

・相続あるあるとして、腹違いの兄弟姉妹など相続権のある親族を把握できていないこと。

・遺言書は財産の多い人だけでなく、誰にでも必要。残された家族のためだけでなく自分の人生を立ち止まって考えるきっかけ。若いうちから下書きすることをオススメする。

・終活のキッカケとしては、罰則規定有り令和6年度より相続登記が義務化された。

非常にわかりやすく、またテンポよく紹介がされ参加者にとっては自分や家族の人生の最後について考える機会となりました。



意見交換コーディネーターの和田さん

- ・「人生の最期をどう迎えたいですか？どう送りたいですか？」をテーマに行われた意見交換は、2名の質問のみで（会場借り上げ）制限時間となり意見交換までには至りませんでした。
- ・福村氏からは、遺言と遺留分の違いや相続を知り得ないときはどうするか、など具体的な疑問にそれぞれの確な回答がありました。



福村氏へ質問する参加者



それぞれの質問に端的に
回答いただきました



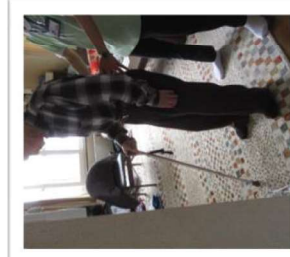
○参加者アンケートから

- ・講師の方がわかりやすく、大きな声で伝えていただきました。とても参考になりました。言葉を遺す。残された家族のために、笑えない話を笑って話せるうちに！実践したいです。ありがとうございました
- ・必ずやって来る未来の話を専門家に聞かせてもらって参考になった
- ・ユーモアを交えて、解り易くお話頂きとても良かったです！
- ・遺言書の「下書き」から始めてみようと思いました
- ・将来の不安が減りました。講演がすばしかったです
- ・自分はどのような治療、又は介護を希望するか、家族と話し合ってみたいと思った
- ・20年も深川に住んでいるので住みやすい地域だったと思いたい
力になれることがあれば参加もしてみたい
- ・いろいろお世話になっています。介護を支えてくださるみなさんいつもありがとうございます

来年度の開催内容は現在未定ですが、担当部会で鋭意検討中です。

【北空知地域リハビリテーション活動支援事業】

居宅訪問



関係スタッフと居宅訪問し、自立支援に向けた環境整備、支援サービスについて助言を行う。

通所訪問



通所事業所にて集団活動や対象者への助言を行う。

地域ケア会議・担当者会議



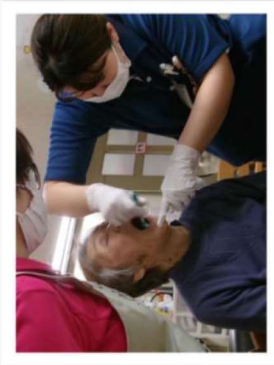
地域課題の協議の場への参画、担当者会議にて対象者への支援について協議を行う。

介護予防事業



サロン、老人クラブ、健康教室等にて「自助」「互助」への動機を高める講話を行う。

スタッフ研修



事業所・施設等にて訓練指導員や看護・介護スタッフへリハビリ技術についての研修を行う。

○地域リハビリテーション活動支援事業 実施件数

年度	深川市	妹背牛町	秩父別町	北竜町	沼田町	合計
令和5年度	271	75	62	81	92	581
令和6年度	228(-43)	68(-7)	61(-1)	54(-27)	49(-43)	460(-121)

	年度	個別訪問	通所訪問	ケア会議	担当者会議	介護予防等	研修会	その他	合計
深川市	5	120	1	13	111	19	2	5	271
	6	128	5	14	61	16	1	3	228
妹背牛町	5	27	0	11	26	10	0	1	75
	6	31	0	11	17	8	1	0	68
秩父別町	5	27	0	4	24	6	1	0	62
	6	36	0	4	12	8	0	1	61
北竜町	5	23	4	9	22	7	7	9	81
	6	22	4	10	8	6	2	2	54
沼田町	5	38	0	2	37	14	1	0	92
	6	23	0	0	11	14	1	0	49
合計	5	235	5	39	220	56	11	15	581
	6	240(+5)	9(+4)	39(±0)	109(-111)	52(-4)	5(-6)	6(-9)	460(-121)

- ・令和6年度、派遣リハ職が退職し7名から5名体制となる。派遣リハ職の支援内容について関係者と協議を重ね、9月以降より『担当者会議』を事業項目から除き、派遣時間の短縮と報告業務の削減を図る。
- ・令和6年度実績は前年度比-121件 合計460件。派遣リハ職は院内外の業務を効率的に進め、対象者や関係機関に問題を生じることは無く経過する。

【個別訪問】

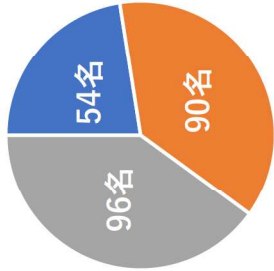
○訪問実績（延べ件数）

年度	深川市	妹背牛町	秩父別町	北竜町	沼田町	合計
R1年	39	15	46	11	10	121
R2年	36	15	37	17	13	118
R3年	54	17	36	12	38	157
R4年	56	22	33	24	54	189
R5年	120	27	27	23	38	235
R6年	128	31	36	22	23	240

○依頼先

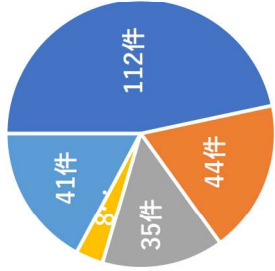
地域包括支援センター				居宅介護支援事業所			
	R4年度	R5年度	R6年度		R4年度	R5年度	R6年度
深川市	49	85	94	深川市内居宅	7	35	34
妹背牛町	20	26	30	妹背牛りぶれ居宅	2	1	1
秩父別町	24	19	14	秩父別町内居宅	9	8	12
北竜町	18	18	15	北竜永楽園居宅	6	5	7
沼田町	33	13	8	沼田社協居宅	21	25	15
合計	144	161	171	合計	45	74	69

○対象者介護度



■ 事業対象等 ■ 要支援 ■ 要介護

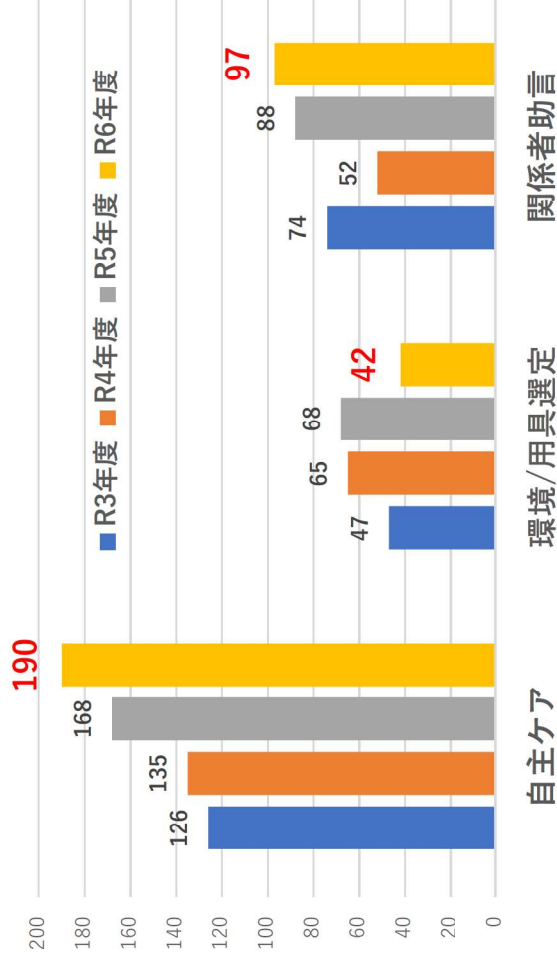
○対象者主疾患



■ 運動器 ■ 脳血管 ■ 内部障害 ■ 認知症 ■ 難病

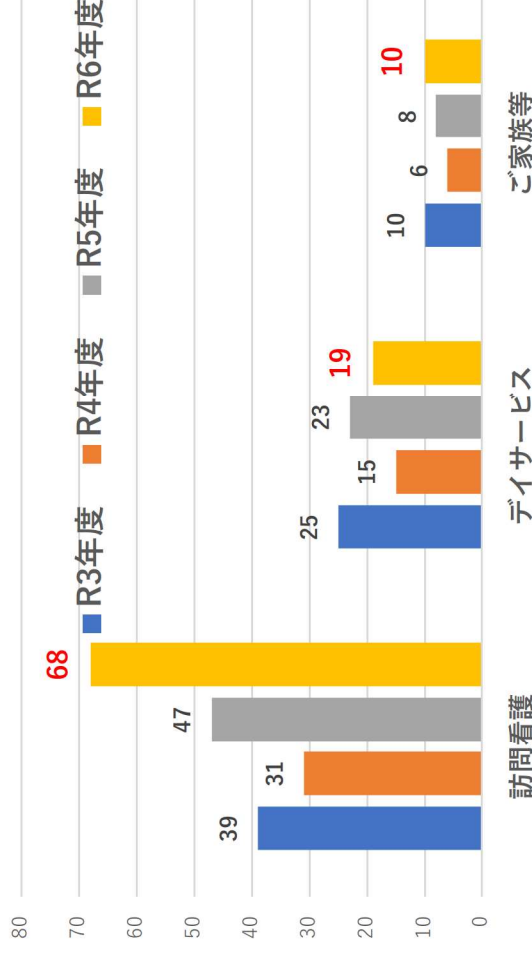
- ・市町で対象者の有無により増減あり。前年比+5件 合計240件。
- ・居宅介護支援事業所からの依頼がR5年度より増加傾向で推移する。
- ・要介護者が多く、脳血管疾患、難病疾患など症状進行による生活障害を伴う方に対して定期訪問を実施する。

○リハ職への依頼内容



- ・自主ケアへの指導依頼は年々増加する。
- ・R5年頃より意欲低下者に対する自主ケアへの動機付け、支援関係者への助言依頼が多くなる。
- ・住宅内の環境整備は、入院期間中に行う方が多くなり、当事業を活用は減少傾向となる。

○関係機関等との連携



訪問看護	みのり	深川訪看	いしずえ	みんなそら	合計
R5年度	31	14	2	0	47
R6年度	40	19	7	2	68

- ・各訪問看護ステーションより、難病や脳血管疾患、意欲低下者等に対して、現状に合ったリハビリ内容について定期的な助言依頼が増加する。

【通所訪問】

○訪問実績

年度	深川市	妹背牛町	秩父別町	北竜町	沼田町	合計
R1年	12	8	0	17	0	37
R2年	9	4	0	6	0	19
R3年	1	0	0	10	0	11
R4年	0	0	0	8	0	8
R5年	1	0	0	4	0	5
R6年	5	0	0	4	0	9

- ・ R2年度以降から訪問依頼は減少傾向で推移する。
【要因】 個別訓練を実施していなかったためリハ職の助言は必要ない。
スタッフが少ないため助言を実施することが難しい。
- ・ 事業所訪問又は『きたそらりんく』による連携を手段を活用し、リハ助言を活用した取り組み事例について、地域ケア会議等にて紹介し普及啓発をする。

北空知地域障りハにリアンション活動支援事業

通所利用者様のりハビリ内容やADL介助等
ちよっと困ったときにリハビリ職がICTきたそらりんくで
助言を行います。

地域りハビリ情報も発信します。

例えばこんなことで困ったときに…

ご利用の流れ

Step 1 ICTきたそらりんく
利用申込み書の提出

Step 2 ICTきたそらりんく
ID、パスワードについて
管理者からご連絡します。

Step 3 ICTきたそらりんく
利用開始。

問い合わせ

0164-22-1101 深川市立病院
北空知地域医療介護連携支援センター（地域連携室内）

□ 術後、疼痛など症状に合った運動メニューについて。

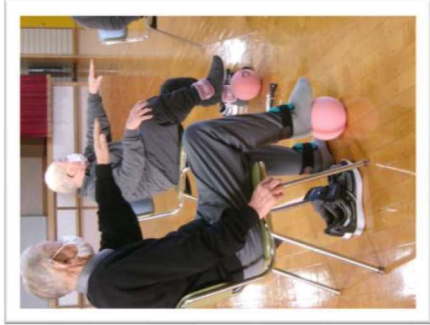
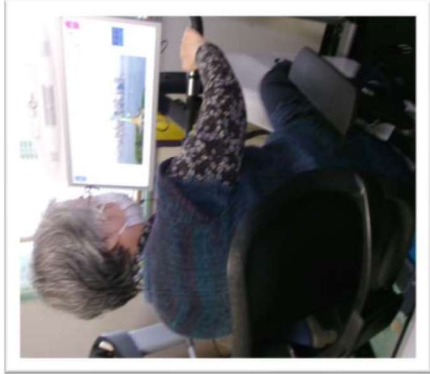
□ 不調や不安の訴えに対する対応について。

□ 褥を腫瘍や休むことが多い方への対応について。

□ 転倒の危険性が高い方への能力改善について。

□ 息苦しい、疲れやすい方への効果的な運動とは。

□ 身体機能評価や認知機能の評価方法について。

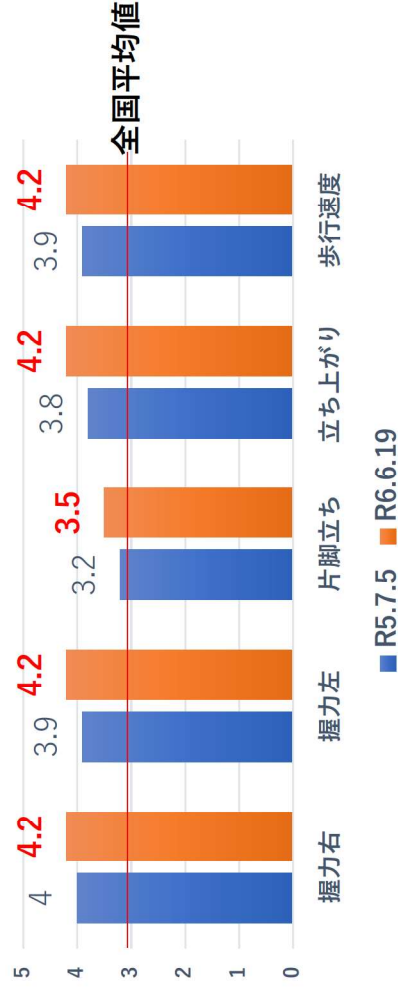


【介護予防事業】

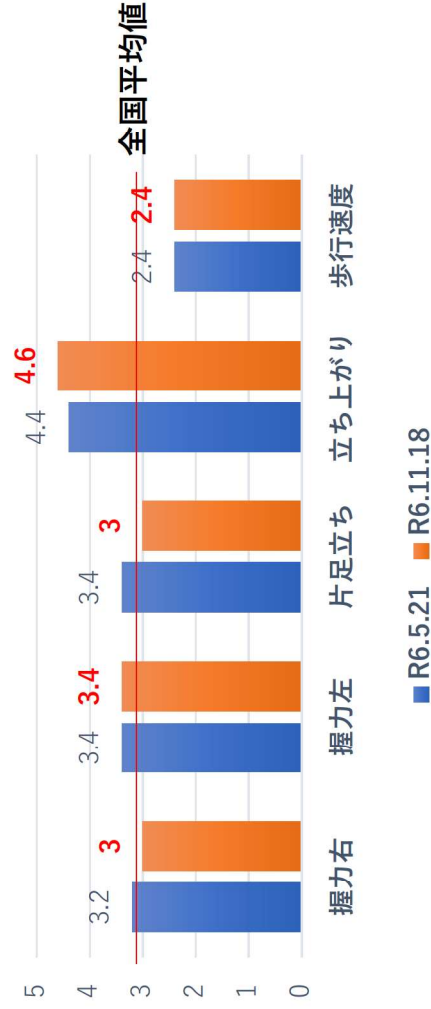
○実績

年度	深川市	妹背牛町	秩父別町	北竜町	沼田町	合計
R1年	18	2	4	0	14	38
R2年	24	5	7	1	10	47
R3年	18	3	6	5	10	42
R4年	15	6	6	6	16	49
R5年	19	10	6	7	14	56
R6年	16	7	8	6	13	50

○深川市健寿OB会 毎週開催 (継続参加者17名/平均年齢76歳)



○妹背牛町：わかち愛もせうし広場 毎週開催 (継続参加者5名/平均年齢85歳)



- ・週1回、体操及び他者との交流を継続することで、体力測定各項目において全国平均前後値を維持する。
- ・ライスパワー体操の普及啓発、体力測定結果を元に、生活習慣病予防、認知症予防、サロン参加動機を高める。

【スタッフ研修】

○実績

年度	深川市	妹背牛町	秩父別町	北竜町	沼田町	合計
R1年	4	0	0	5	1	10
R2年	0	0	0	2	0	2
R3年	0	0	0	1	0	1
R4年	0	0	2	5	0	7
R5年	2	0	1	7	1	11
R6年	1	1	0	2	1	5

○R6年度 リハビリ研修実施施設等

深川市	： デイサービスみんカフエ
妹背牛町	： グループホームべにばら
北竜町	： 特別養護老人ホーム永楽園
	： グループホーム碧水
沼田町	： グループホームなごみ

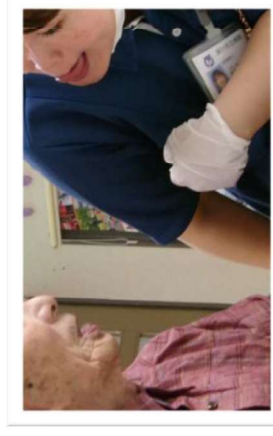
- ・入所者に対する介護方法や運動方法、食事形態などについて助言をおこなう。



- ・北竜特養永楽園：車椅子姿勢について。



- ・GH碧水：肩の可動域改善方法。



- ・沼田GHなごみ：言語聴覚士より摂食嚥下評価から、適切な食形態を助言を行う。